あなたも東京民研へ

2023年度研究員を募集

東京民研（東京の民主教育を進める教育研究会議）は、東京都教職員組合（都教組）が、「東京の子どもたちをすこやかにかしこく育てるために、教職員、研究者、父母の協力のもとに、憲法と1947教育基本法の条文に示された理念に基づき民主的な教育実践の創造と普及及び理論の研究をおこなう」ことを目的に設立したものです。

東京民研では、日常的な部会活動とともに、共同研究集会、総括集会などを行っています。

これから、2023年度研究員を募集します。希望される方は都教組の各支部・地区協へ連絡してください。

国語

金田一清子

「詩って楽しい。心が解放された子どもたちは、このコロナ禍の中でもすてきな作品を次々と生み出した」「やっていいことばかり　詩の指導・詩のいいところを五つも発見」このような若い人の報告が続いている国語部会です。あなたも自分の実践を持ち寄って参加しませんか。

外国語

吉岡　潤子

外国語部会では東京都の実施する東京方式少人数習熟度別授業や都立入試のスピーキングテストや全国的に現場が困っている3観点評価などの課題に向き合いながらも、生徒たちにとってより楽しく、深い学びのある授業をめざし皆で知恵を出し合っています。

算数・数学

北見　眞弥

算数が苦手な子、算数が嫌いな子には教科書にない方法で教えてみませんか。私たちは子どものつまずきや遅れに対して様々な工夫を重ねてきました。そして、「先生、できたよ」「算数、好きだよ」と笑顔で話してくれる子どもたちと出会ってきました。一緒に研究しましょう。

社会科

坂爪　邦雄

新教科書の分析をしながら「たのしくわかる」「子どもが主人公になる」授業をテーマにしておこなっています。観点別評価をどう考えるか、タブレットをどう使うなど、東京民研だからこそできる子どもの視点にたった実践交流ができます。ZOOM併用でおこなっています。

理科

高麿美恵子

今年度は、「小中のつながりを考える」をテーマに「酸アルカリ」「水溶液」について、小学校の教科書の扱い、私たちの実践、中学校の実践を話し合いました。自然科学の本質をどう教えていくかについて話し合えるのが、理科部会の魅力です。どなたでも参加出来ます。

美術

竹内　美弥

タブレット導入で子どもの発達に様々な懸念が生まれる中、本物の素材に触れ道具を駆使して自分の思いを形にする美術の重要性を痛感しています。作って楽しみ、作って友達と触れ合い、作って自分に手ごたえを感じる子どもたちとの実践を、作品を持ち寄って交流しましょう。

音楽

嶌田千津子

学校こそ豊かな文化の発信を！　音楽部会では、東京民研や教育研究集会で確かめられてきた豊かな教材を的確に手渡し子どもたちと共に育つ授業を創ろうと、実践を聴き合い学び続けています。音楽科の特性を生かした教職員と協働した学校作りを進める努力もしています。

家庭科

谷内　香子

生きて生活していくことについて学ぶ。それは、子どもの現実の生活からスタートする学びの展開を大切にします。問題があればどうしたらよいか考えられるような学習を探ります。社会と繋がり主権者としての生活者の視点、そしてジェンダー平等の視点を大切にしながら。

保健体育

岩崎　明美

水泳で、みんながわかって教え合いながら泳げるようになる教え方を研究しています。今年度はできませんでしたが、できれば水泳教室を開催して学習したいと思っています。

一緒に学習してくださる方、保健体育部会の研究員になってください。

生活科

高鷹　敦
中河原良子

何でも「やってみたい！」と興味を持って自分で試したくなる低学年の子どもたち。でも教科書の体験は本質的な学びにつながる内容でしょうか？生活の中の直接体験を発展できているでしょうか？来年度も「低学年で何をこそ？どう？」をテーマとして学習交流します。

学校保健

中川　真紀

保健室には毎日多くの子どもが訪れます。心や体の不調から居場所を求めて来る保健室で、私たち養護教諭は、子どもの言葉に耳を傾け、目線に立ち、ありのままを受け入れることから始めます。

今、多様性が求められる学校保健。大いに交流し、議論しましょう。

進路指導

岩井　紀子

子どもの心の芯はどこにあるか。自分自身を見せたくないのか、見せるすべを持たないのか。子どもの数は減っても子どもたちの進む道の節々に受験・入試が待ち受けている。そのような状況の下で、東京の中学・高校でどのような教育が進められているのか、考える場にしたいです。

障害児教育

山下　洋児

どのように子ども理解を深め、どのような授業をつくっていけばいいのか、その実践を保障する制度はどうあるべきか。特別支援学級・特別支援教室の具体的な実践を基に、都教組障害児学級部と連携しながら、検討を進めます。どうぞあなたも障害児教育部会へ。

文化活動

山川　政志

コロナ禍で、子どもたちのまわりからヒューマンなふれあいやコミュニケーションの機会が奪われています。

子どもたちの成長と発達が心配される今、学校や地域が育てる豊かな文化活動の創造について一緒に考え、研究や実践に取り組みませんか。

生活指導

林　生信

「生活指導部」は「子どもと共に学級をつくり」ながら、子どもたちの成長・発達を追究している部会です。子どもの発達は集団のなかでの成長・発達の面が強いのです。「仲間のトラブルから学ぶ」ということはそういう意味です。部会に参加して一緒に学習しませんか。

職場の民主化

西田　昭司

人格の完成をめざす教育は、教職員が自由に意見が言えて、民主的に物事が決められる職場でなければ実現できません。そんな職場をどうつくっていくのか、どんな努力をしたらよいのか、そんなことを研究しています。

現場の方の参加を期待しています。

教育条件整備

亀井　雄一

教育条件整備とは、学校のお金の使い方を考えることだと思います。雨漏りの校舎があるのに、児童・生徒全員にタブレット端末を配布する方が優先なのはなぜ。事務・栄養職員が全校配置でないのはなぜ。35人学級がすぐに実現しないのはなぜ。皆さんで考えましょう。

学校給食

宮鍋　和子

「めっちゃおいしい！ぼく生きてて良かった！」、リザーブ給食の時のE君の言葉です。昨年は箸に関する資料をまとめました。今年はE君のように心に響く、子どもを主権者とした教育としての学校給食とは？を皆で話し合っています。一緒に語りあいませんか。

地域・学校づくり

平賀　佐宏

コロナ禍のため、教育懇談会等の子どもを支える地域や学校の取り組み等もオンラインは使えるもののまだまだ厳しい状況にあります。地域ごとに微妙に違う厳しさをどう知恵を出し合って乗り越えようとしているのかを学習・交流しませんか。

平和教育

佐藤　康尚

ある中学校の校外学習のスローガンです。「『平和』を学び理解できるものとなれ、争いよりも世の『平和』を願える者となれ、武器よりも『平和』を作るものとなれ」…ここには平和学習の内容・意義・目標が見事に示されています。交流の機会を作りましょう。

道徳（心の教育）

矢澤　正道

道徳教科書を乗り越えるために、どうしても自主編成・自主教材が必要です。まず、クラスの実態、課題にマッチしたもので、「人権」「平和」「民主主義」など普遍的な価値観、共通認識が内容になっていることが重要です。それらの実践交流を通して学び合いましょう。

ジェンダーと性の教育

天沼　文

ジェンダーという言葉を多く見聞きするようになりましたが、まだまだジェンダーバイヤスは気づかないところに根強く残っています。ジェンダーと性教育＝人権教育、教育こそ大切。ご一緒に、具体的にどのような実践ができるかを教科・領域を超えて幅広く交流、考えましょう。

紹介文には掲載されていませんが、**技術科部会、幼年教育部会、人権と教育部会、教育評価部会**もあります。希望される方はご連絡ください

2022年度

東京民研総括集会

この間、コロナ禍やウクライナ侵攻を受け、社会全体に不安があふれています。2021年度不登校の小中学生が、24万人を超えたと報道されました。そんな中で、東京民研は、子どもの発達について注目し、大切にしなければならないことを追究してきました。教育課題は多方面に渡りますが、研究・実践をすすめるためぜひご参加下さい。

日時　2023年3月26日（日）10：00～16：30（予定）
会場　エデュカス東京5階B会議室